

P C T

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 03 JUL 2004

WIPO

PCT

04 MAR 2004

出願人又は代理人 の書類記号 W0804-00	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO2/13553	国際出願日 (日.月.年) 25.12.2002	優先日 (日.月.年) 27.09.2002
国際特許分類(IPC) Int. Cl. G03G7/00, D21H19/42		
出願人(氏名又は名称) 三菱製紙株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- ☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 1 ページである。
3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV ☐ 発明の単一性の欠如
- V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ☐ ある種の引用文献
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 28.11.2003	国際予備審査報告を作成した日 16.06.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 中澤 俊彦	2H 9221
電話番号 03-3581-1101 内線 3231		

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1-25 ページ、出願時に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

- ☒ 請求の範囲 第 4, 6 項、出願時に提出されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲 第 1-3, 5 項、27.05.2004 付の書簡と共に提出されたもの

- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-6	有 無
	請求の範囲		
進歩性(IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-6	
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-6	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 2001-83729 A (富士ゼロックス株式会社) 2001. 03. 30

文献2: JP 2002-62679 A (三菱製紙株式会社) 2002. 02. 28

文献3: JP 2002-14485 A (株式会社リコー) 2002. 01. 18

・請求の範囲1, 2について

文献1【0030】には、基紙の両面上に、有機中空顔料(文献1にあつては「中空構造有機顔料」)が顔料(文献1にあつては「軟質炭酸カルシウム」、「カオリン」及び「中空構造有機顔料」)100質量部中に20質量部配合された塗工層が設けられた電子写真用転写紙が記載されている。

そして、文献2【請求項4】には、電子写真用転写紙の塗工層中に含有させる中空顔料の中空度を50~55%となすことが記載され、文献3【請求項4】には、電子写真用転写紙の塗工層中に含有させる中空粒子の中空度を80%以上となすことが記載されるところ、文献1記載の有機中空顔料は、文献2に記載される中空顔料、文献3に記載される中空粒子と同様に、電子写真用転写紙の塗工層中に含有させる粒子である点で共通するのであるから、文献1に記載される有機中空顔料の中空度を、文献2、3に記載される中空度値となすことにより、電子写真用転写紙のクッション性を改善させ得るであろうことは、当業者であれば当然に予測し得た程度のことであつて、文献2【請求項4】、文献3【請求項4】に記載される中空度値を参酌のうえ、文献1に記載される有機中空顔料の中空度を調整し、その値を、請求の範囲1に示される数値範囲を満足するごとく設定するようなすことは、当業者にとって自明な事項である。

・請求の範囲3, 4について

文献2【0054】に記載されるドライキャストカレンダー処理は、文献1【0030】に記載されるスーパーカレンダー処理同様に、電子写真用転写紙塗工層の光沢度を向上させる処理にほかならないのであるから、文献1【0030】記載の電子写真用転写紙塗工層に、スーパーカレンダー処理にかえ、ドライキャストカレンダー処理を施すことにより、電子写真用転写紙塗工層の光沢度が改善され得るであろうことは、当業者であれば当然に予測し得た程度のことであつて、文献1【0030】記載の有機中空顔料含有塗工層に施される光沢化処理として、スーパーカレンダー処理に

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V 欄の続き

かえ、文献2【0054】に記載されるドライキャストカレンダー処理を用いるよう
なすことは、当業者にとって自明な事項である。

また、塗工層の光沢度は、電子写真用転写紙に求められる画像部光沢度の程度等に
応じ、当業者が適宜調整し得る程度の特性に過ぎず、文献1記載の電子写真用転写紙
における塗工層の光沢度を調整し、当該塗工層の光沢度を、請求の範囲4に示される
ごとき範囲に設定するようなすことに格段の困難性を見いだすことはできない。

・請求の範囲5について

文献2【請求項4】に記載される中空顔料粒子径値を参酌のうえ、文献1に記載さ
れる有機中空顔料の粒子径を調整し、その数値を、請求の範囲5に示される数値範囲
を満足するごとく設定するようなすことは、当業者にとって自明な事項である。

・請求の範囲6について

文献1【0015】、文献2【0034】に記載される秤量値を参酌のうえ、文献
1に記載される電子写真用転写紙の秤量を調整し、その秤量値を、請求の範囲6に示
される数値範囲を満足するごとく設定するようなすことは、当業者にとって自明な事
項である。